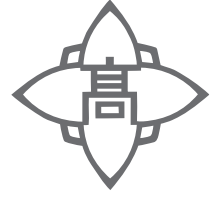




東陵



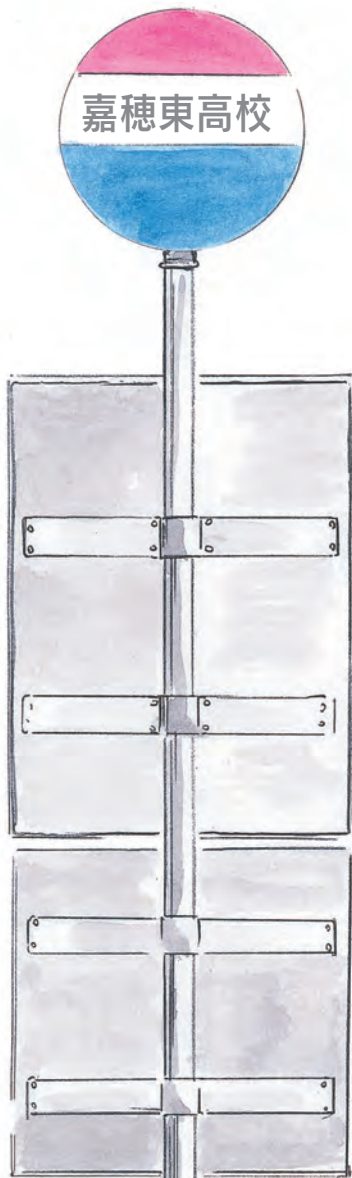
福岡県立嘉穂東高等学校同窓会報

第19号

発行／平成28年10月

飯塚市立岩1730の5

嘉穂東高等学校同窓会



行先は

未来
・
・
・
・

イラスト提供
江頭 猛(高36回生)



ごあいさつ

同窓会会長 藤江文雄

宇宙は生きている。まして無限の宇宙の中を漂っている地球は生き物、刻々変化しています。最近の事象では約6000年前ころをピークに海面膨張が起り、遠賀川も現在の直方付近まで海が入り込んでいました。ですから、地球の長い生息の中で、地球の内部、表面では人間が感知できない様々な変動変化が起こることは十分に承知できます。

とは言え、今年の4月以来熊本地方を襲った天変地異には怒りを憶えます。何で？何で？の連続でした。襲ってくる災害に私達同窓生として具体的に何をどうすればよいのか、ただただ模索を重ねるだけで、歯がゆい思いの時間が今尚続いています。地震に重ね大水害、阿蘇の噴火などに被災され精神的、物質的に苦悩されている関係同窓生に心からお見舞い申し上げます。重ねて被災地域の1日も早い復興の具体的な活動が展開されることを願っています。

私が母校の生徒達に話をさせていただくときに、母校が建っている地域の古代における歴史的意義に触れることがよくあります。響灘から遠賀川を遡る恵まれた水運で中国・朝鮮との交流による高い文化・技術が流入したこと。立岩遺跡から発掘された前漢鏡をはじめ貴重な埋蔵品。焼きの正（母校の小字）の土器製作地（弥生式土器）。青銅や鉄製の武具や多くの装身具・農機具は、飯塚市をはじめ嘉麻市・桂川町を含む遠賀川が形作っている三角地帯が日本の国の成り立ち以前から栄え、我が国の先進地域であったこと。そのようなことから日本の国の成立に大きな役割を果たした地域だと話しかけ、この地域に対する誇りを持って欲しいと話しかけています。

さて、2016年度の嘉女・嘉穂東高等学校同窓会総会並びに懇親会を、多くの困難を克服され今

日の宴を執り行うことに奮闘された第45回卒の加峯委員長をはじめ当番回期の皆さんに、深甚の感謝を申し上げます。

本校の同窓会活動は皆さん方のお陰で充実の道を進んでいることを確信しています。永年の課題であった同窓会の年会費の件ですが、財務部会・企画広報部会の活動と相まって皆さん方のご理解ご協力をいただき、前年度を超える会費をいただきました。一方、本部の皆さん方に対する趣旨徹底が不十分であったことをも知らされました。今後はより細やかな手立てを工夫しながら、皆さん方の期待により応えることができる活動を進めてまいります。

情報の提供の点では、ホームページの活用が拡がっていますが、同期の情報交換、本部への情報提供などもっと多くの活用を期待しています。

永年の課題の本部同窓会懇親会の件については、今後も会員の皆さんのご意見をいただきながら検討を進めてまいります。

終わりに、昨年度本部役員として活躍していただいた森、上田両副会長が引退されました。継続しての活躍を期待していましたが、ご事情をお受けして新たな役員を迎えました。この新体制で次期2年間、母校と同窓会のより発展に寄与できるよう邁進してまいります。

最後に、全国に拡がる同窓生の皆さん方の、益々のご健榮をご祈念申し上げます。





ごあいさつ

校長 富田 博之

ごあいさつにあたり、まず本年4月の熊本県を中心とした地震によって被害に遭われた皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

同窓会行事は「嘉女嘉穂東 in くまもと」をもって年度初めとなります。今年度は、絶好の晴天に恵まれ、熊本城の満開の桜に彩られた中での楽しいひと時となりました。しかし、春風駘蕩というにふさわしいあの美しい光景を再び目にすることができなくなってしまいました。一日も早い復興を願うばかりです。

さて、同窓会の皆様におかれましては、日頃より母校発展のためにご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。同窓会に創設していただいた大学進学奨学金も、本年3月の卒業生で2回目を迎え、卒業式直後に藤江会長より2名の生徒に授与していただきました。2名はそれぞれ国際貢献、情報工学を学びたいという志を持って広島大学、九州工業大学に進学しました。同窓の皆様の気持ちが込められた浄財をもとに、それぞれの夢を実現してくれることを切に期待しています。

次に学校の様子を少し述べさせていただきます。

「体育祭も終わった。気持ちを早く切り替えて平常の生活や学習に戻ることが大切だ」。これは、体育祭直後の学年集会などで生徒諸君に指導する常套文句です。しかし、私自身がこの体育祭のことをいつまでも忘れることができないでいます。教職生活最後の体育祭をこの大好きな嘉穂東高校で味わうことができた幸せを嘯みしめながら2学期を過ごしています。2週間に及ぶ全体練習。趣向を凝らした前日祭。そして9月3日の体育祭本番。生徒諸君の炎天下をものとしめないエネルギー、台風を寄せ付けぬパワーにゾクゾクす

る思いを抱きながら体育祭という本校最大の行事を堪能することができました。

終了後、生徒会長と体育局委員長が私の所に来て、「校長先生、最高の体育祭ができました。ありがとうございます」と挨拶してくれました。この素直さが本校生の財産です。また、後片付けの終了間際、応援スタンドの最上部に座って「最後の体育祭も終わったなあ」と感慨にふけていると2年生の女子生徒が声をかけてきました。

「校長先生、体育祭楽しかったですか？」と。

「楽しかったあ！」と答えると、「私たちも楽しかったです。けど、来年はもっと楽しい体育祭にしますから絶対見に来てくださいね」と語ってくれました。この優しさも本校生の財産です。

こんな生徒たちの姿を見ていると「伊藤が作った学校がつまらぬものと言われたくない」という傳右衛門さんのご期待に少しは応えられているのかなあと思いますし、何より106年の長い伝統の中で先輩方が培ってこられた本校の校風の普遍性を感じます。

このような本校生が持つ美点をいっそう活かしながら、地域に愛され、信頼される学校として歩み続けなければなりません。今後とも、同窓の皆様の母校に対する変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



オーストラリア語学研修

平成28年7月30日(土)から8月8日(月)、英語科2年生がオーストラリアのゴールドコーストで海外語学研修を行いました。

平日の午前中は語学学校で生きた英語を学び、午後は伝統的なお菓子作り等の活動を行いました。土日はステイ先のファミリーと過ごし、貴重な異文化体験ができました。自分の英語が通じた喜びをかみしめ、さらに英語を学びたいと思った有意義な9泊10日となりました。



語学学校前にて



授業風景



お菓子作り



英語科
代表スピーチ

文化祭

平成28年6月17日(金)・18日(土)の2日間、文化祭が行われました。

今年は、「Colorful Page ～輝る瞬間～」をテーマに、1年生は合唱コンクール、2年生は熊本地震被災地へのメッセージを含めたコインアート、3年生はステージ発表を行いました。また、文化部の日頃の活動の成果発表に加えて、英語科の英語劇「THE WIZARD OF OZ」の上演も行いました。生徒たちの生き生きした姿、輝く様子がたくさん見れた文化祭でした。



1年6組 合唱「優勝」



2年1組 英語劇



3年生 ステージ発表



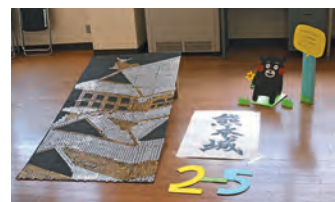
2年2組 コインアート
「スパイダーマン」



2年3組 コインアート
「アイアンマン」



2年4組 コインアート
「ジャイアン」



2年5組
コインアート
「熊本城」



2年6組
コインアート
「スヌーピー」

熊本地震から半年

台風も過ぎ去り秋の気配が感じられるようになりました。あの日から、もう半年経とうとしているのが嘘のようです。地震というのは地面が揺れるものだと思っていました。まさか、天井が揺れるとは思わなかったのです。つい昨日の出来事のように思う日もあれば、夢だったのではないかとと思う日もあり、まだまだ心の整理がつかないまま、ご心配頂いた事へのお礼と、様々な形でのご支援への感謝の気持ちだけはお伝えしなければと、それだけの思いで拙文をしたためております。

梨のおいしい季節になりました。もうすぐ柿もお店に並ぶでしょう。梨を並べていた玉虫色のガラスの器も、柿が似合う地元木乃丸院窯の藍色のお皿も、わかっているのに探そうとして、すべて割れてしまったことに気づきます。これからクリスマス、お正月、雛祭り、と何度か同じ喪失感に見舞われることになるでしょう。食器棚が倒れない対策でもしていれば、と何度後悔してもそれは取り返しのつかないことです。ただ、これが食器ではなくペットや肉親の命、思い出の詰まった自宅すべて、仕事、そういうものをなくした方の気持ちは、私の比ではありません。それも、最初の地震に耐えて、生き残ったことを確認したものが、翌日の夜中になくなってしまったのです。一度で終わると思っていました。まさか、余震の方が大きいなど思いもしませんでした。県民皆の心に「諦めきれないもの」を残したのが今回の熊本地震の特徴だと思います。「がんばろう熊本！」と口々に励まし合ってきましたが、半年の月日が経って「元には戻らない」ものがあるとわかり始めたような気がします。

「階段で言うと『おどり場』に来ているのではないか。」と地方紙のコラム欄に書いてありました。とりあえず立ち止まって、休んで、自分ほどこまで上るか決めるときなのでしょう。

多くの人がひとつになろうとするとき、必ず方言のスローガンが出来てきます。各所で目につく「がまだすばい！熊本！」の言葉。しかしそこで生まれ育ったものでないと、その言葉に力を貰うことは出来ません。「自宅よりもお城を先に直して欲しい。」と言われる地元の方との温度差を感じつつ、それでいて、報道も含め益城、阿蘇、西原村以外には被害のないような無理解な言葉に心



が折れ、県外に出ることも怖がっていた頃、福岡支部から同窓会のご案内を頂きました。うちの中も最低限の生活の場所しかないような状態だったので、身なりを整えることも出来そうになく、一旦はお断りしましたが、熊本の同窓生の皆さんからの「よろしくお伝えください」「なんとか頑張っています」というお言葉を伝えたいと思い、震災後初めて、熊本を出ました。

私たちの苦労はわかって頂いていないだろう、という予想は見事に裏切られ、福岡支部ではたくさんの方々からねぎらいと励ましのお言葉を頂きました。東京支部、関西支部でも同じようにお心を砕いて頂いていると伺いました。懇親会でのお料理がホントにおいしくて、そういえば震災以来初めて外で食事をしたということに気づき、いつまでも食べていたのではないかと思えばお恥ずかしい限りです。天神の街中では至る所に募金箱が置かれ、熊本の特産品コーナーも設置され、こんなに心配して頂いているのだと知り、涙が出ました。行って良かったとつくづく思いました。九月末には本部から熊本の同窓生全員に宛てて、お見舞いのポストカードが届きました。

震災後すぐに連絡してくれた同級生。お葉書を下された先輩。食料を送って下さった先輩。野菜とお米をどっさりくれた友達。ただただ、心配して下さった皆様。人のお世話ばかりしてるんじゃないか、と私を心配して下さった方。いろいろな形でご支援下さった方々。本当にありがとうございました。

「嘉女・嘉穂東会inくまもと」は、来年も4月第1土曜日にアークホテル熊本城前にて開催いたします。熊本城天守閣は3年後に再建の目処が立ち、急ピッチで復興作業が始まりました。是非、立ち直っていく熊本を、ご覧になって頂ければと願っております。

母校の動き

(1) 教職員の異動

転 出

荻野 幹生(教頭) 三輪中学校校長に昇任
 佐藤 一孝(事務長) 田川高校参事兼事務長に昇任
 安永 憲弘(地理歴史) 嘉穂高校定時制教頭に昇任
 波津久明子(英語) 福岡魁誠高校へ
 保坂いづみ(数学) 須恵高校へ
 木下 美佳(事務室) 嘉穂高校附属中学校へ
 沖野あずさ(事務室) 須恵高校へ
 植木 桂子(司書) 小倉南高校へ

転 入

開田 徹(総括教頭) 本校副校長に昇任
 吉田 昭二(教頭) 鞍手竜徳高校より
 高瀬 吉次(参事兼事務長) 西田川高校より
 小畑 康信(数学) 嘉穂高校より
 田邊 悠一(地理歴史) 新規採用
 中島 美歩(英語) 新規採用
 川並 敏文(事務室) 嘉穂総合高校より
 中村 有介(事務室) 嘉穂東高校定時制より
 森園 文香(司書) 小倉南高校より

(2) 進路実績 ※合格者延べ人数

第68回生(平成28年3月卒業)

国公立大学 **9名**
 (北九州市立大学3名・九州工業大学2名・
 福岡県立大学1名・広島大学1名)
 私立大学 **280名**
 (西南学院大学22名・福岡大学60名・中村
 学園大学7名・関西外国語大学2名・同志社
 大学1名・同志社女子大学1名・日本体育大
 学1名他)
 国公立短期大学 **1名**(大分県立芸術短期大学)
 私立短期大学 **21名**
 看護系専門学校 **13名**(麻生看護大学校7名他)
 医療系専門学校 **14名**
 その他の専門学校 **76名**
 公務員 **23名**
 民間就職 **9名**

(3) 部活動実績(全国大会・九州大会)

H27.10月～H28.10月

【水泳部】

★福岡県高等学校総合体育大会水泳競技選手権大会
 (福岡県) H28.6月11日～12日



坂本 一真(3年)
 100m背泳ぎ **第7位**
 200m背泳ぎ **第8位**

水泳部九州大会
 坂本 一真

※以上、全九州高等学校水泳競技大会出場
 (大分県) H28.7月16日～18日

★福岡県高等学校選手権新人水泳競技大会
 (福岡県) H28.9月3日

北原 瑞咲(2年) 50m自由形 100m自由形
 相浦 礼奈(1年) 50m自由形 100m自由形
 嘉藤 史也(1年) 100m平泳ぎ 200m平泳ぎ
 田中 咲都(1年) 50m平泳ぎ

※以上、標準記録突破により、全九州高等学校選手
 権新人水泳競技大会出場
 (福岡市) H28.10月1日～2日



水泳部新人戦
 九州大会

【吹奏楽部】

★第35回福岡県高等学校音楽コンクール
 (北九州市 響ホール) H28.8月20日

松岡 璃乃(2年) 打楽器部門(マリンバ)
金賞・グランプリ賞

※以上、全九州高等学校音楽コンクール出場
 (イヅカコスモスコモン) H28.11月12日



吹奏楽部
 松岡 璃乃

ようこそ先輩！



平成28年2月4日(木)第1学年対象に「ようこそ先輩」が行われました。毎年行われている恒例行事で、在校時や卒業後の社会体験を通して、それぞれの視点から人生観等を卒業生から在校生に伝える貴重な機会になっています。今回は平成12年度～平成19年度に卒業した若い世代の先輩の話を、在校生も興味を持って聴き入っていました。在校生の進路実現の参考になれば幸いです。



角野 沙緒梨 先輩



平嶋 誠 先輩



志岐 侑里子 先輩



内田 拓也 先輩



落合 将史 先輩



丸山 良太 先輩

外部講師

1組	角野 沙緒梨	グランドスタッフ	60回生
2組	平嶋 誠	西日本旅客鉄道株式会社	56回生
3組	志岐 侑里子	リポーター・ヨガインストラクター	54回生
4組	内田 拓也	郵便局	60回生
5組	落合 将史	消防士	56回生
6組	丸山 良太	麻生専門学校グループ	53回生

嘉穂東高校同窓会奨学金授与式

平成28年3月22日に母校校長室にて、校長推薦で選ばれたそれぞれ2名の生徒に藤江同窓会長より直接、奨学金が渡されました。(父兄同席のもと)。この制度が、より高い目標を持ち努力を続けている生徒の一助になればと願っています。



同窓会支部だより

関西支部総会・懇親会

開催日：平成28年4月16日

開催場所：大阪キャッスルホテル 3階 錦城閣

<http://www.geocities.jp/kahohigasikansai/>

今、関西支部で多少気がかりな点は、ここ数年、総会・懇親会への出席者が減少ぎみという状態です。今年はこの問題に役員、幹事が総がかりで取り組み、28年の総会では満足のいく数字を達成できました。

東陵歴史散策も評判がよく、今年は、環濠に残る中世の自治都市“平野”を訪ねました。ここは関西の人にもあまり知られてなく思わぬ収穫でした。歴史を辿ると平安の坂上田村麻呂に出会い、関西の歴史の深さにあらためて想い至りました。
(事務局長：中村 英)



東京支部総会・懇親会

開催日：平成28年5月28日

開催場所：品川プリンスホテル

<http://www.kahohigasi.com>

今年も100名の参加者を迎えて支部総会を盛大に開催できました。その成功の陰には、18回生の夢だにできない活躍がありました。

実は、この10年間、18回生の総会参加はほとんどなく、昨年の総会后、祈るような思いで今年が当番学年であることを連絡しました。そうしたところ、年末あたりから豊田さんを中心に、同期生の方々が集まり、見事な総会の準備と運営をしてくださいました。また、福岡を含めて13名の18回生が参加されました。この姿から、嘉穂東校の同窓会という“火種”は間違いなく卒業生の胸に残っていることを確信しました。

来年の担当は19回生です。今年に引き続き、来年も同じようなドラマが再現するのではないかと、今から期待に胸をふくらませています。
(支部長：中野滋徳)



福岡支部総会・懇親会

開催日：平成28年6月25日

開催場所：西日本新聞会館16階

<http://kahohigashi.sakura.ne.jp>

6月25日、約180名の参加を得て第23回支部総会・懇親会を開催。高齢で尊敬する先輩たちの祝舞や詩吟で始まり、トランペット演奏等プロ顔負けの出しもの、逍遥歌等で大いに盛り上がりました。最後は、今や恒例となった皆が輪になって踊る「博多どんたく総踊り」から、祝いめでた、博多手一本で締めと相成りました。

総会では高校20回卒の飯塚市議会議員松延氏から、「筑豊緑地会」等について、筑豊の現状などを交えた講話をお聞きました。
(支部長：田代 勝)



しらつち ひろじ
白土 洋次 (高校8回生)
福岡県古賀市在住



赤い機関車が緑の中で映える「あかつき」
2009年6月

フォト随想

惜別の青列車

2009年3月13日、寝台列車「富士」は、JR大分駅から東京駅に向けて最終運行日を迎えた。午後4時44分、紙吹雪が舞う中「富士」は静々と動き出した。これを逃せば、二度とその姿を写真で捉えることはできない。ファインダーを涙で曇らせながら、私は夢中でシャッターを切った。

この日「走るホテル」と呼ばれたブルートレイン（ブルトレ）は九州から消えた。日本の高度成長期とともに鉄道は進化し、遠距離を走るブルトレは多くの人たちに利用された。やがて時代は流れ、より早い新幹線や飛行機が台頭し乗客が減少、廃止の道をたどることになった。

早春、鹿児島から北海道まで新幹線のレールがつながった。便利さの陰で旅情や、心の機微が人の記憶から忘れ去られるのは悲しい。私は思う。「いつか形は変わっても心のゆとりを大事にする列車が復活するのではないかと。旅の楽しみは、目的地

（白土洋次）



多くの鉄道ファンが見守る中、最後の日を迎えた「あさかぜ」
2005年2月



青空の下、鹿児島の海岸線を快走する「なは」
2004年1月



桜が咲き誇る中、東京に向かう「富士」
2008年4月

自己紹介

1937年、飯塚市に生まれる。石炭産業が最盛期だったころ、筑豊線沿線で育った。蒸気機関車が石炭を載せた貨車をけん引する力強さに憧れ、鉄道写真にはまった。

幼少のころから今日まで鉄道一筋。晴れた日も暑い日も、雪が降る日も、機材を車に積み込み、列車を追ってきた。長い時間をかけて待った列車が、あつという間に私の目の前を走り去っていく。まるで片思いをしているかのような気持ちだ。だが、いい写真を撮れたときの充実感は、何事にも替え難い。

これまで、フォトコンテストで入賞多数。鉄道専門誌で多くの写真が掲載された。2013年に北九州市門司区の九州鉄道記念館で写真展を開いた。



取材にお伺いして…

平成28年4月3日の西日本新聞に大きく見開きで鉄道写真が紹介された記事に目がとまり、撮影された方のプロフィールを見ると飯塚市出身！後日、母校の先輩であることを耳にし、早速取材を申し込みました。

嘉徳東高校時代、生徒会長をされていた白土先輩の卒業アルバムの写真は間違いなく「イケメン」でした。卒業後、自動車会社の営業を経て、古賀市で整備工場を起業され約50年、傍らで支えてこられた奥様、瑞代様も母校の13回生です。

眠ればいつも飯塚の夢を見るところ。特に芳雄橋とボタ山は印象深く、筑豊を出て初めてわかる故郷への想い「望郷の念」を熱く語っていただきました。

最後は、取材に同行していただいた福岡支部の八尋弓夫先輩（高校5回生）と4名で「吾が追遥歌」を唄い、母校が結ぶ「同窓生の絆」を深めた楽しい取材でした。

企画広報部：伊藤浩之



ごあいさつ

2016年度 嘉穂高等女学校・嘉穂東高等学校同窓会総会
実行委員長 **加 峯 靖 亮** (高校45回生)

空は深く澄み渡り、日増しに秋の深まりを感じる季節になりましたが、皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じ上げます。

2016年度嘉穂高等女学校、嘉穂東高等学校同窓会総会を開催するにあたり、当番生を代表いたしましてご挨拶申し上げます。

15の春、父に車で送ってもらい受験番号を確認し無事合格した感動で手が震えていたことを今でも忘れることができません。希望を胸に入学した母校、480名の仲間と一緒に過ごした3年間、たくさんの思い出を嘉穂東高校に作ってもらいました。友達と騒いで勉強に集中できなかった数々の授業。決して模範となる生徒ではありませんでしたが、所属していた吹奏楽部では夜遅くまで練習し、目標に向かって一致団結した仲間達との思い出が社会人となり仕事に没頭する中、全てがモノクロームになっていました。しかし、24年の月日が流れバラバラになったパズルが1ピース、1ピースと組み合わせていく毎に色鮮やかな思い出が時と共によみがえります。

我々45回生は、2016年度嘉穂高等女学校、嘉穂東高等学校同窓会総会の当番を承りここまで活動してまいりました。

4月の熊本会では熊本城にお招きいただき、見事に咲き誇った満開の桜に心奪われました。そして、熊本で未曾有の地震が起こりニュース等で、震災の映像を見る度に胸が苦しくなりました。自分たちにできることは熊本会の皆様に頂いた想いをしっかりと同窓会総会を成功させることで恩返しをしようと思心に誓いました。地震の影響もありましたが翌日関西支部へ行き5月の東京支部、6月の福岡支部へご挨拶に伺いました。各支部の皆様には温かい激励の言葉をかけて頂き、又母校の素晴らしさをたくさん教えていただきました。私の知ってる嘉穂東の歴史は在学した3年間でしたが、これまで続けてきた母校の歴史を実感し私の愛校心が徐々に芽生えていきました。

この支部まわりを通じて今回のテーマである『つなぐ』～時を超えて未来へつなぐ～の意味を実感させていただきました。

これは、嘉女の時代から脈々と受け継いでこら

れた歴史や伝統を後輩達へまた私達の子供の世代まで、未来永劫につないでほしいという願いを込めて決定いたしました。このテーマを決めた当初はまだまだ同窓会総会への責任感は薄いものでした。しかし、各支部回りを通じて先輩方の母校への熱き想いを知り、私達45回生はこれまで続けてきた100年以上の歴史と新しい未来を『つなぐ』接点、要（かなめ）であることに気づきました。今では2016年度同窓会総会の当番をさせて頂くことがどれほど名誉なことかと感じています。

また広告協賛金回りにつきましても更に多くの企業支援者様からご協賛、ご寄付をいただき感謝の思いでいっぱいです。伺った先々で「同窓会頑張ってね!」「同窓会行くからね!」とお声をかけて頂き嬉しく思いました。これほどまでに先輩方、地域の皆様に支えられ同窓会総会が開かれるのかと思うと感無量です。同窓会に関わる全ての皆様へ、厚く御礼申し上げます。

同窓会の定例会に来ると、体裁を気にせず本気でぶつかり合った仲間にも再会できたことを嬉しく思います。高校時代に作った友情が今回の同窓会当番を通して本物の友情になったと思います。あつという間の約450日でしたが、この同窓会活動が私自身をひと回りもふた回りも成長させてくれたことを実感しています。

数えきれないほどの思い出と今の自分自身を作り上げてくれた母校に直接恩返しができる機会です。その機会に恵まれたことに感謝し最後まで喜びと誇りを胸に責務を果たし同窓会総会を成功させます。

懇親会では私達45回生一同、真心を込めて精一杯のおもてなしをさせていただきます。皆様には、ゆっくりと仲間たちや先輩、後輩たちと素晴らしいひと時を過ごし思い出話に花を咲かせていただきまして、「今年の同窓会も良かったなあ〜」「また来年も来たいなあ〜」と笑顔でこの会場を後にしていただけることを心より願っております。

最後に、本部役員の皆様、そして、同期のみんなへ心より感謝の気持ちを申し上げます私の挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

お知らせ

2017年の総会・懇親会は10月21日 第3土曜日です。

テーマ：「熱男・熱女(あつお・あつこ) 青春再点火!」

スローガン：「魂は一つに繋がっている」



2017年度実行委員長
戸田 徹(高校46回生)



本部役員

H26.10~H28.9

会長	藤江文雄(高9)
副会長	森昭(高17)
〃	井上 有比古(高24)
〃	上田 奈美(高26)
〃	小池 千津子(高27)
総務部長	近藤 哲司(高31)
財務部長	永末 英雄(高20)
企画広報部長	伊藤 浩之(高32)
監事	花元 國雄(高21)
〃	尾籠 慎吾(高31)

福岡支部役員

H28.4~H30.3

支部長	田代 勝(高15)
副支部長	兒嶋 佳苗(高18)
〃	岩佐 守(高19)
〃	花岡 清利(高19)
事務局長	小川 民夫(高20)
幹事長	武谷 政道(高21)
副幹事長	野見山 清豪(高24)
広報局長	本田 博文(高23)
会計	入江 裕章(高21)
〃	淀川 雄治(高21)
会計監査	藤 正敏(高18)
〃	里 弘和(高22)

東京支部役員

H27.6~H29.5

支部長	中野 滋徳(高12)
副支部長(事務局)	木之下 喜久子(高15)
副支部長(渉外・会計)	伊藤 房憲(高20)
事務局員(会計)	村山 夕紀子(高20)
事務局員(H P担当)	松尾 正好(高20)
会計監査	野見山 照久(高11)
〃	柴田 芳彰(高22)

関西支部役員

H28.4~H30.3

支部長	田中 良一(高8)
副支部長	中野 弘則(高9)
〃	安藤 克史(高12)
事務局長	中村 英(高11)
会計	伊藤 日出雄(高21)
会計監査	荒牧 建蔵(高15)

※中村事務局長の任期はH27.4~H29.3

同窓会事務局

事務局長 上村 浩朗(高35)

事務局 岩下 哲(高53)

本部だより

筑豊地区の中学生数の減少、私立高校との競合、嘉穂高校の中高一貫化など母校を巡る厳しい状況の中、同窓会として、今後も学校側と連携をとりながら、母校の特色化(第一希望進路の実現・明るく楽しくのびやかな校風・国際理解教育)を推進いたします。

●年会費について

平成27年より同窓会会員の皆様から年会費3,000円をご納入いただく事が決定し毎年、趣意書と振込用紙を封書にて会員の皆様に発送させていただいております。同窓会のさらなる充実と財政基盤の確立、母校の発展のため、年会費納入につきまして皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

入学式・卒業式などの式典に出席する機会がありますが、生徒の皆さんの姿勢や態度は凛として清々しく、校舎内ですれ違う際もしっかりと挨拶をしてくれます。先生方のご指導のお蔭です。今後も、多くの同窓生がいろいろな分野で活躍されることを願います。

「東陵」に加え、同窓会公式ホームページでも最新のメッセージや多岐に亘る情報を発信してまいりますので、卒業生の活躍や同期会の報告、恩師の近況など皆様からの様々な情報をお寄せください。お待ちしております。

企画広報部

平成28年度 創立記念式典及び講演会

2016年5月10日(火)

創立記念式典は、年に1度、母校の長い歴史を振り返るひとつのきっかけとするために、毎年5月に開催されています。1910年創立の母校は、今年で106周年を迎えます。

式典では、富田校長が式辞を、同窓会の藤江会長が祝辞を述べられました。富田校長は創立者、伊藤伝右衛門氏や30名の歴代校長、数多くの先生方・生徒たちによって築かれた歴史の重みを、藤江会長からは創立当時の時代背景や女性の権利について、さらに学校が立つ地域は日本の古代の文化の宝庫である遺跡であることに誇りを持つと激励のメッセージを頂きました。

続く講演会では、母校の25回卒業生で、株式会社麻生飯塚病院の取締役院長であられる増本陽秀（あきひで）氏にご講演いただきました。

まず、麻生飯塚病院の概況と最新の医療設備やサービス、様々な講演会・研修会の開催、地域貢献活動を紹介され、「日本一のみごころ病院」実現のための「三本の矢」（ISO・TQM・INOVATION）について熱く語っていただきました。

続いて、嘉穂東高校時代、自分の実力を試すため最難関の九州大学医学部を目標に設定し、突然、猛勉強を始めるが受験に失敗、予備校で体力と精神力の限界まで勉強し翌年に合格された体験談と、医師になって30代後半でアメリカ留学を目指し、有名大学に次々と手紙を送り（100通以上）、何度も断られ挫折したが、あきらめずに送り続けた結果ハーバード大学への留学が実現したエピソードを語っていただきました。

最後に、生徒の皆さんへ

夢を持って、自分の力より少し上に目標をおいて
いつも少しがんばって、つらい時もあきらめずに
すこしずつ上に登って、良い思い出を残しながら
夢をめざそう

と激励のメッセージをいただきました。

講演終了後は、生徒代表謝辞、花束贈呈、応援団からのエールを送りました。

増本陽秀氏のますますのご活躍を、嘉穂東高校・同窓会一同、お祈りしております。



飯塚トピックス

麻生飯塚病院



医師:約300名 看護師:約1,100名
病床数:1,116床
日本発のクローバー型病棟でナースステーションから病室への導線が近い。
自家発電設備は停電時、1週間も賄える。
外来待ち時間短縮の取り組みは学会で「学術奨励賞」を受賞。
遠賀川川下り大会・飯塚山笠など地域貢献活動にも参加。
世界の医療施設と提携。
麻生看護大学校は平成26年度まで10年連続、国家試験合格実績100%

麻生大浦荘



「筑豊御三家」のひとつに数えられた麻生家の別邸で、数奇を凝らした和風入母屋書院造りの美しい邸宅は大正末期に建てられたと云われています。建材は主に桧と杉、柱は四方柱に製材されており非常に高価な木材が使用されています。

まちなかイルミネーション大作戦



市民参加型の手づくりイベントとしてスタートして5年目。千鳥屋本家から片島まで緑道公園の全区間にイルミネーションを設置。まちを愛する市民の方々からの募金や協賛金で運営されています。
点灯期間:
平成28年11月26日～平成29年1月20日

飯塚市役所新庁舎建設中

新庁舎は、地上8階建て、市の防災拠点でもあり、災害に強い建物とするために「免震構造」を採用しています。また、正面玄関付近には野見山暁治画伯（飯塚市出身の日本を代表する洋画家）の原画をもとにしたステンドグラスが設置されます。平成29年2月末完成予定。



同窓会公式ホームページでは、同窓生の皆様からの情報をお待ちしております。

●同窓会公式ホームページアドレスは <http://kahohigashi-doso.net> です。

